

讀すへき所あり著者は同鐵道敷設に關する露國の政策は世人の憂慮する如く東邦侵略にわらずして英國と對峙するに在りとし却て之を利用するの計を運らすへき旨を詳論し終に永世對外の策は國利的の交際を隆盛にする是也との意を以て之を結へり蓋し西比利亞鐵道の果して恐るゝに足らざるやは一の疑問にして吾輩は俄かに著者に賛成すること能はずと雖も之か利用の點に至りては雙手を擧げて同意せざるを得ず而して著者か其利用の方法に關して述ふる所詳ならざるに非すと雖も亦以て盡したりと謂はざるへからず著者豈各專業家の補足を待つなからんや且つ其同鐵道に對する英支兩國の方策を記すに當り英に詳にして支に略なるか如き聊か不權衡の謗なきに非ず然れども著者此書の自序に於て豫告せり東方策第二編の譯述を終へなは朝鮮論支那論南洋論加奈陀論太平洋論等を著はさんと吾輩は此等の書陸續刊行せられて此書の缺を補ふのみならず大に東邦進歩の指針たらんことを望む

●西比利亞鐵道論

(國民之友)

東洋のヤルク、稻垣滿次郎氏は前に東方策を著はせしが、今又其註疏の如き者として

茲に此西比利亞鐵道論を著はせり其熱心實に感ずるに餘あり但し今は著者も

「西比利亞鐵道に對して利害の影響を蒙るべき支那及び東洋に利害を有する英國は誠に勇しく既に十分なる方策を立てたり」

と許せり然らば本書の目的は何にあるや、是れ専ら日本人を警醒せんとするにある者の如し、さればにや氏は慨然として歎じて曰く、

「然るに獨り我日本に至りては之に對する其政略暫も一定せざるは何ぞや」

然らば我が國か露國或は該鐵道に對する政略は如何すべきや、著者曰く「西比利亞鐵道は恐るべき者に非ず」否な魯國「自身も決して恐るゝに足らず」露國は啻に我國土を蠶食せんとすの希望を有せざるのみならず有する能はざる也何となれば縱然此等の野心を有すとも達する能はされはなり(注意點は總て著者の附せる者故に我は該鐵道を利用して我が貨物殊に美術品を露國に賣ひるむることを専らとすへし云々) 誠に旨き考と謂ふべし彼は勞して鐵路を敷き我は逸して巨利を攫む日本たる者亦幸福と謂ふべし

●西比利亞鐵道論

(郵便報知新聞)

既に東方策を著はす筆を擧ぐるの序て先づ此書に及ひたるは順序の正を得たる者あり編中論する所鑿々肯綮に中たる固より東方策の汎然漫然徒らに疎枝大葉を剔出して止みたるの比に非ず蓋し前者は是れ事を論するの大幹從て細要に亘るを得ざる者あり本書は其註疏極めて局所に關はるの致す所あるか議論雄大意氣軒昂の所本書固より彼書に及はす然れども考據精確筆に秋霜を帶ふる所彼書固より此書に及はず而して識者の注意を惹き興人の參考に資する者寧ろ却て本書に在らん

●西比利亞鐵道論

(東京日々新聞)

世の識者西比利亞鐵道を説く然ども其の設計の如何ん目的の如何ん東洋に對する關係如何ん歐米諸國に對する影響如何ん等其の詳細あるものに至りては之れを説くもの否之れを知るもの少し稻垣滿次郎氏は曩に東方策を著して名を内外に轟かし名士亦た其の識見の凡ならざるを稱す氏今度亦た西比利亞鐵道論を著せり之れを見るに前の欠くる所のもの一々明晰詳密と叙述論辨し同鐵道の面目始めて明なるを致せり氏は日本か同鐵道に對するの策として其の恐るゝに足らず我國は却つて之れを利用すへきことを説けり是れ亦た大勢に通するの論經世家の參考とすへ

きものなり吾曹も此の問題に就て聊か思ふ所あり然れども今茲に細評するを止め只た一言を記して讀者に紹介せんと欲す我邦の對外政策に心を留むるの士は宜しく一讀すへし

●西比利亞鐵道論

(經世新報)

西伯利亞鐵道は、亞州幾億萬人士の瞳眸一聚しつゝある所の一大問題なり、今や敏明の識、該博の才を以て、其疑問を破り、亞洲人士をして其行路の向ふ所を知らしむる方策出づ、是れ曩に東方策の著を以て文壇に出でたる俊才稻垣滿次郎氏なり、編中露英將來の優劣勝敗に付き、同氏の所論往々英國的に僻する所あるを免れずと雖ども、大體議論卓越引證精覈、錯綜整齊、一大長篇を成せる獨得の手腕は、東方策と異なることなし、而して世人の注意を惹くに至ては、却て東方策の上に出づるなるへし、但し印度孟買及びカルカッタと地中海の距離と、其航程計數、同氏記載する所と英國雜誌の記載と相符合せざるものあるか如し、是れ彼此印刷の誤謬に出でたるもの乎、將た英人の誤乎、再考を要したき事なり、若し夫れ西伯利亞鐵道利用の論に至ては、吾輩更に端を改めて論する所あるへし、

●西比利亞鐵道論

(朝野新聞)

著者嘗て東方策を著して世の好評を博し今又た西比利亞鐵道論を公にす鐵道論を以て東方策に比するに其考証の該博議論の警拔後者決して前者の下に出でざるか如し而して後者の前者程に好評なきは如何

●西比利亞鐵道論

(東京新報)

東方策の著者稻垣滿次郎氏更に西比利亞鐵道論を著す一小冊子の中西比利亞鐵道の外加奈陀鐵道、巴奈馬、「ニカラガ」運河を利用し兵事に商業に日本をして東洋の英國たるの實を擧げしめんとするを説く膽何ぞ大なるや現時日本に憂ふる所のものは達眼者の少きにあらすして英雄豪傑の多きに在り船頭の乏しきにあらすして船頭を統御する人なきに在り融を捫て天下の大勢を論するの政談家あるも巨萬の富を擁して名譽の爲め國政を料理するの道樂政治家なきに在りステツキを振り廻す蹊士あるも國家の爲に倒るゝ眞壯士なきに在り不平の爲め發狂を氣取るの愛國家あるも眞に國家の爲に盡すの愛國者なきに在り氏の論する所世人之を知る知て而てし目下の紛擾を挽回する能はざるは競争場裡の乏しきに在り英雄賣捌所の少き

に在り氏若し眞に國家を憂るの念あらは英雄販賣店の開設に盡力すへし

●西比利亞鐵道論を評す

(東洋新報)

東方策著者稻垣滿次郎此頃又た西比利亞鐵道論を著はし余に一部を贈りて批評を需む余輩不幸にして之を精讀するの暇を有せず然れども西比利亞鐵道は彼の加奈多鐵道「ニカラガ」運河均しく世界の形勢を一斬する偉大なる勢力を有する問題なり、否寧ろ我か東方亞細亞諸國の關係より云は、亞比利亞鐵道の大勢力は「ニカラガ」の堀割よりも加奈多の鐵道よりも遙に雄大なる勢力を有すへきものなるか故に余輩勉めて拾ひ讀みに之を通覽したり然るに實に其立論の精確にして議論の縱横なるを贊せざる可らず

元來西比利亞鐵道は後藤伯に依つて廣く我か國民に知られたり然れども伯の西比利亞鐵道論は危急存亡大同團結の八字に止り曾て我か國人か之を利用して國富を増進するの計に説き及ざらざるあり稻垣氏の西比利亞鐵道論は其の目的より歴史、確定線、鐵道の利益、瀛車の速力、鐵道布設及び營業の收支、鐵道の將來に及ぼす影響、英支兩國か之れに對する政策及び日本の露國鐵道に對する方策等を論したり是に於て

乎日本人たる者西比利亞鐵道に關して稍々蒙霧を開くを得たりと云ふへし實に斯の書微せば我が國民は西比利亞鐵道に關しては其概念をも有せざる者多かりしあり然れども余輩をして遠慮なく云はしめば此の書に於て惜しむ所の一は西比利亞内地の人口、物産、商業上の景況を説くと甚十分あらざると一は倫敦「マルセル」等より印度洋或は加奈多鐵道若くはニカラガ運河を経て日本支那に來たる貨物運賃等の比較等の精密あらざるに在るなり之を詳言すれば亞細亞歐羅巴間通の船舶か此の鐵道の爲めに將來如何ある影響を受く可き乎若し此の邊にして明白精確あらんは一層我東洋貿易問題に適切の注意を喚起したるへけれ然りと雖も西比利亞鐵道に關して我が國未だ此の書の如き好書を見ざるあり蝸牛角頭の憤争を事とする政治家先生請ふ斯る有益ある著書を精讀して朦々たる雲霧を開かば庶幾くは大計を誤らざらん

●西比利亞鐵道論

(經世博議)

吾人は嚮に稻垣氏が著はせる東方策を讀んで其識見の偉大其觀察の周密に驚きしも今や未だ數月あらざるに又其西比利亞鐵道論を得たり西比利亞鐵道は近日我邦

人が彷徨せる一大迷霧にして種々の妄想種々の疑惑一として此裡より生せざるはなし然るに今や氏は精細なる事實に基ひて之か論評を下す此に於てか此一大迷霧は殆んど消散したり是其功大なりと謂つへし此書に掲る西比利亞の延長距離、開設の費用、軌道の廣狹、開通の沿路費用の豫算、竣工の時日、又た之より露國の軍備上、商業上、施政上、製造上、農業上、鑛業上、理財上に及ぼせる目途を論するに至りては其盡く事實に基きて架空の想像にあらざるを確信す而して氏か此鐵道布設に對する我邦の方略即我陸海軍農商務遞信内務各省の爲めに經畫するに至りては吾人は未だ容易に其是非を判斷する能はずと雖も亦た其參考の材料となるの價值あるを確信して疑はず然らば此書の殊に我邦に有益ある實に又た氏か前著東方策に相譲らんや氏は此著に於て其自ら執る所の學説は歴史主義にあるを明言せり吾人は此に由りて獨り嘆す方今我邦に於て博士學士の榮譽を享け又氏と同じく海外に留學して歐米文化國學問の淵藪に在りたるもの何人を限らん而して氏の如く國家の爲めに有益の書を著はして海内の耳目を警するもの果して幾人かある遂に當代をして哲學の事は只井上哲次郎之を談じ國家の事は只稻垣之を談す活潑活識の學者は只此二人

而已と言はしむるに至る此れ實に氏か學を受る其人を得たる歟將た其天資卓絶及
ふ可らざるものある歟

明治廿四年八月廿八日 印刷 全年八月廿九日出版
全年十二月十九日再版印刷 全年全月二十日再版



著作兼 發行人 稻垣 滿次郎
東京市北豐島郡巢鴨町三丁目二番地

印刷者 福田 重富
東京市北豐島郡巢鴨町一丁目二七番地

發行所 哲學書院
東京市日本橋區本町六丁目

特約販賣所 博文堂
東京市神田區西小川町貳丁目五番地

印刷所 東京市北豐島郡巢鴨町字一丁目二十七番地巢鴨活版所

大 販 賣 所

| | | | | | | |
|--------|--------|----|---|---|------|------|
| 東京日本橋區 | 全 | 東京 | 博 | 全 | 越後水原 | 西村六平 |
| 全神田 | 博 | 文 | 館 | 全 | 長岡 | 上田屋 |
| 全京橋 | 東 | 京 | 堂 | 越 | 中高岡 | 學海堂 |
| 全日本橋 | 博 | 聞 | 社 | 全 | 富山 | 中田書店 |
| 全 | 小林喜右工門 | 熊 | 本 | 長 | 崎 | 長崎次郎 |
| 全 | 丸善商社 | 博 | 多 | 鶴 | 野 | 常吉 |
| 全 | 大倉孫兵衛 | 廣 | 島 | 博 | 聞 | 社支店 |
| 大坂心齋橋筋 | 松村九兵衛 | 山 | 口 | 松 | 村 | 善助 |
| 全備后町 | 梅原龜七 | 德 | 島 | 塞 | 翁 | 堂 |
| 全 | 吉岡平助 | 鹿 | 兒 | 坂 | 井 | 萬吉 |
| 全 | 青木嵩山堂 | 札 | 幌 | 吉 | 田 | 幸兵衛 |
| 京都河原町通 | 太 | 黒 | 屋 | 前 | 野 | 長發 |
| 信州松本 | 高美書店 | 仙 | 臺 | 文 | 學 | 館 |
| 名古屋 | 川瀨代助 | 其他 | 全 | 國 | 各 | 書 |
| | | 林 | | | | |

三 版 東方策 第壹編

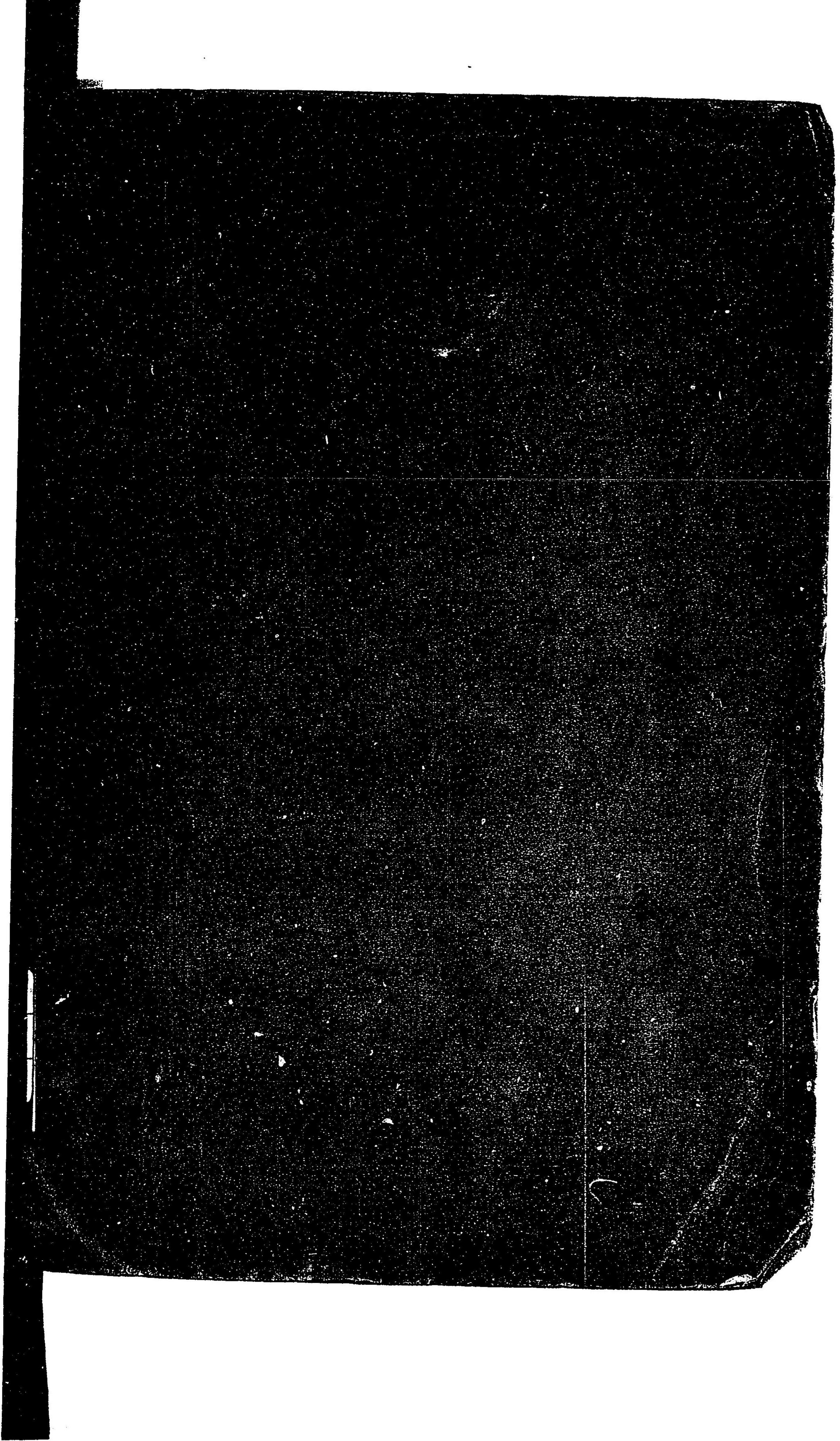
定價金四十錢
郵税不申受

全世界に對する大日本の天分地歩力量運命を確斷して一代の方嚮を指導し一世の人心を揮擡せる東方策第一編は初版再版共に須臾にして賣切れ今や其の第二版成れり茲に滿天下渴望の諸士に告ぐ

對 外 策

小川一真氏製○寫真版肖像入○全一冊
定價十五錢○郵税不申受

右は東方策の著書を以て其名を海の内外に轟きたる稻垣滿次郎君の演說筆記なり抑此演說は數年君が胸裏に鬱勃せる積誠の熱火の煥發せるもの宜なり天下の人心を鼓動せしむるの深や今弊堂君に請ふて更に之が訂正を加へ以て之に公にす滿天下の志士幸に一本を購ふて我邦前途命運の相岐る實に今日にあるを恐れ特に寫真版肖像を挿入したれば一讀の下人をもて天地を包み古今來を包むの識、天地を包み古今來を包むの膽を具ふる稻垣君の親炙し面り其卓論を聴くの感あらしむむ



045016-000-7

686.229-1374S

西比利亞鐵道論 (2版)

稻垣 滿次郎/著

M24

BDP-0202



